

## 第 92 回女川原子力発電所環境調査測定技術会会議録

開催日時：平成 15 年 11 月 7 日午後 1 時 30 分から

開催場所：パレス宮城野 3 階 千代の間

出席委員数：18 名

会議内容：

### 1 開会

司会：ただ今から、第 92 回女川原子力発電所環境調査測定技術会を開催いたします。

会議に先立ちまして、本会議には委員数 28 名のところ、18 名の御出席を頂いておりますので、本会は有効に成立しておりますことを御報告致します。

それでは、本日、会長が所用のため欠席しておりますので、森環境生活部次長からあいさつを申し上げます。

### 2 あいさつ

(森環境生活部次長あいさつ)

### 3 新委員の紹介

司会：ありがとうございました。ここで、本日欠席しておりますが、人事異動により今回新たに、財団法人日本気象協会東北支局営業課 木村史之委員が就任されたことを報告いたします。

それでは、森副会長に議長をお願いし、議事に入らせていただきます。

### 4 議事 議長：森副会長

議長：それでは、どうぞよろしく願いいたします。さっそく議事に入ります。評価事項の「イ」、平成 15 年度第 2 四半期の「環境放射能調査結果」について、説明願います。

#### (1) 評価事項

イ 女川原子力発電所環境放射能調査結果（平成 15 年度第 2 四半期報告）について

（高橋委員から平成 15 年度第 2 四半期の環境放射能調査結果について説明）

議長：ありがとうございました。これまでの説明につきまして御質問、御意見がございましたらよろしく願いいたします。

岩崎委員：あいなめでストロンチウムが検出されたのは、測定器の感度がよくなったためということですが、もう少し詳しく説明してください。

高橋委員：従来の検出器に比べ感度が 2 倍程度になり、これまで検出限界未満であったものが分かるようになったものです。

岩崎委員：今までの検出限界と今回の検出限界はどれくらい違うのですか。

事務局：試料にあいなめのデータがありますが、ストロンチウム濃度が  $0.011 \pm 0.003$ 、標準偏差の

3 倍を検出限界としていますので、これですと検出下限は 0.009、約 0.01 になります。今までの測定器はバックグラウンドが高く、検出下限が 0.02 程度で倍でした。

議長：他になければ次に移ります。「ロ」の平成 15 年度第 2 四半期の温排水調査結果について、説明願います。

ロ 女川原子力発電所温排水調査結果（平成 15 年度第 2 四半期報告）について

（早坂委員から平成 15 年度第 2 四半期の温排水調査結果について説明）

議長：ありがとうございました。それでは、ただ今の説明につきまして御質問なり、御意見がございましたらよろしく願いいたします。

特になければ次に移ります。「ハ」の平成 14 年度温排水調査結果について、説明願います。

ハ 女川原子力発電所温排水調査結果（平成 14 年度）について

（早坂委員から平成 14 年度の温排水調査結果について説明）

議長： ありがとうございます。これまでの説明につきまして御質問、御意見がございましたらよろしくお願ひいたします。

泉委員： 2, 3 号機浮上点で 5 月の水温が高いようですが、どういう理由によるのでしょうか。

横式委員： 3 号機が 14 年 1 月から営業運転を開始していきまして、14 年の 5 月は 2 号機と 3 号機が両方稼働している初めてのデータです。両方の稼働によって、今後このような高めの温度推移になると予想されます。

泉委員： 3 号機の稼働によって高くなったということですね。

関野委員： 数値については特に問題ないと思いますが、流向、流速などそれぞれステーションナンバーの記載が違うので、混乱しがちです。何かもう少し分かりやすい表記を検討していただきたいのですが。

早坂委員： 担当と協議してわかりやすい表記を検討することとします。

議長： その他、何かございませんでしょうか。

それでは、ないようでございますので、平成 15 年の 7 月から 9 月までの環境放射能と温排水調査結果、及び平成 14 年度の温排水調査結果につきましては、本日の技術会で御了承を頂いたものといたしますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

議長： それでは、これをもって御了承を頂いたものといたします。次に、報告事項に移ります。

報告事項の「イ」、女川原子力発電所 2 号機の定期検査の状況について、説明願ひます。

## (2) 報告事項

イ 女川原子力発電所 2 号機の定期検査の状況について

（東北電力（株）から 2 号機定期検査状況について説明）

議長： ありがとうございます。何か御質問がございましたら、よろしくお願ひいたします。

泉委員： 圧力抑制プールはどれくらいの大きさですか。

横式委員： 中空のドーナツ型をしており、直径は約 40 メートルです。断面の直径は約 10 メートルで、この中に約 3, 000 トンの水が入っています。

泉委員： その水は何に使うのですか。

横式委員： 非常用炉心冷却系の水源として貯蔵されているほか、月に 1 回ほど他系統への流入動作確認試験時に用いられます。

泉委員： 定期検査の際には吸い上げるのでしょうか。

横式委員： 今述べた動作確認のため、いくらか吸い上げますが、量としてはわずかです。

泉委員： 吸い込み口があるわけですね。

横式委員： プールの底部より上方にあり、直径 50 センチメートルほどのストレーナーが設置されています。ストレーナーの網目は 1 ミリメートル程度ですので、異物が通り抜けることはないと考えられます。

長谷川委員： 県民から見ると、ないはずのところになぜこういう異物が入ったのかと疑問を持つのではないのでしょうか。プールに水を張る前に忘れたのでしょうか。

横式委員： それも考えられますが、定期検査時における内部塗装の塗り替えや計装品点検時に混入した可能性もあります。

長谷川委員： 現場の確認を十分徹底していただきたいと思います。

木村委員： 私も長谷川委員と同意見です。もう 1 点、異物は物によってはさびついています。これはだいぶ前に、2 号機運転開始以前に落下した可能性もあるのではないかと考えられます。したがって、報告に落下防止の徹底を図るとありますが、確認の徹底も必要ではないのでしょうか。とにかくなぜ異物があつたのかという疑問が残ります。

また、1号機と3号機についても、異物があるかもしれないので、定期検査の際には十分確認するよう願います。

横式委員： これまでも管理区域内への物品の持ち込みには注意を払ってきましたが、さらに工夫すべきことはあると思います。1号機、3号機の定期検査においても確認を行う予定です。

長谷川委員： 最終確認をしっかりとやってください。

横式委員： 今後、針金のような細かい物のチェックも十分行って行きます。

嵯峨委員： 異物を防ぐ方法は、落下防止のネットを張るなどに加え、不用な物を持ち込まないといった人為ミスに対することも重要と考えます。このようなハード、ソフト両面からの対策を十分に検討し、安全確保の充実強化に結びつけてください。

議長： 他になければ報告事項を終了とします。次に、事務局の方から何か連絡はありますか。

事務局： 次回の技術会の開催日を、この場で決めさせていただきたいのですが、3か月後の平成16年2月6日の金曜日、

仙台市で開催することはいかがでしょうか。

議長： それでは、今、次回の技術会について、2月6日の金曜日、仙台市で開催ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、次回の技術会は平成16年2月6日の金曜日に仙台市で開催しますので、よろしくお願ひ致します。

その他、何か、ご質問、ご意見等はありませんでしょうか。

他になければ、これで本日の議事が終了いたしましたので、議長の職を解かせていただきます。

## 5 閉会

司会： 以上をもちまして、第92回女川原子力発電所環境調査測定技術会を終了いたします。どうも、ありがとうございました。